

米帝のカンボジア侵略反対！ 日米共同声明粉碎！ 安保粉碎！

4.28の総力を、5.29全国学生ゼネストへ！

驚くべき事実！中核派らの
権力との公然たる結託に
よる全学連排除を糾弾せよ！

全学連中央執行委員会（大貫健夫委員長）

新宿区戸塚3の366
(364)0705

闘う全ての学友諸君！

いま、米帝国主義者は、その帝国主義的狂暴性を顕わにしながら、再びベトナム戦火をインドシナ全域へと拡大させようとしている。四月三十日、米大統領ニクソンは、「聖域から北ベトナム軍と解放戦線の主力を一掃する」というカンボジアへの全面侵略の宣言を発しつつ血腥い進撃を開始し、またB52の出動による大規模な北爆をも再開したのである。しかもまさにおこる米国内反戦闘争に対しては銃をかまへ弾丸をうちこみながら……。

他方、わが日本の支配階級とその政府もまた、直ちにこれを「止むを得ない措置である」などと公然と支持しつつ、かの日米声明を背景として米帝のカンボジア侵略への露骨な協力Ⅱ加担にのりだし、「ジャカルタ会議」の指導的役割を自らかつてようとしているのである。

まさにこのような、米帝国主義者によるベトナム戦争の新たな拡大と狂暴化に対して、そしてまた日帝の協力Ⅱ加担に対して、われわれは、いま燃えたぎる憤激をバネとして全世界で胎動し高揚しつつある反戦のたたかいの最先頭にたつて、帝国主義者に対する革命的な反撃のたたかいを創造していくでなければならぬ。この新たな事態に対して、「佐藤政府の追従政策を非難」したり、あるいはまた「安保条約固定期限終了期の六月二三日を中心にした全人民的闘争を発展させ、安保廃棄、沖縄全面返還、平昭、中立をめざす統一戦線を結成することがいよいよ緊急かつ重大な課題となったことを強調」（赤旗5月4日）しているにすぎない議会クレチン病患者Ⅱ社共両党のこの腐敗に抗して、われわれは、4・28の総力をあげてベトナム反戦闘争、そしてまた日米共同声明粉碎・安保粉碎闘争の革命的高揚を創生していくでなければならぬ。

＝4・28闘争の意義にふまえ、社共の腐敗に
抗した革命的隊列を更にうち固める！
闘うすべての学友諸君！

じつさい4・28闘争は、まさに今日の日本階級闘争を真に革命的に前進させるものが誰であるかを、一点の曇りもなく明らかにしたといわなければならない。すなわちそれは、まづ第一に、今日の社共既成指導部の腐敗を明確に暴露したのであった。なぜなら、この社共一日共闘は、一方では、労働戦線の右翼の大再編・帝国主義的労働運動の伸長を前にして完全に揺さぶられ遂に自己保身的な反戦との絶縁に社会党・総評がふみきったことを条件として、そして他方では、既成の沖縄「返還要求」運動の完全な破産を糊塗するために、辛じて成立したものにすぎず、まさにそれは彼

らの自己保身と議会主義的腐敗の象徴でしかなかったのだからである。実際、5月1日メーデーにおける、「同盟」系に完全に屈服して安保・沖縄のスローガンをひきおろし辛じて分裂メーデーをまぬかれた、という事情が、端的にそれを示しているのである。

そして第二には、小ブルジョア急進主義者の破産とその最後の没落の必然性がますます曝け出された、ということである。「六月決戦」のシンボルを提起しながらもしかし何らの展望もうち出せない彼ら小ブル八派連合は、まさにベ平連の動員に全面的に依拠しこの4・28を市民主義的Ⅱカンパニア主義的に埋没しりきることに自らの夢を託しつつ、そのために自己保身的なわが全学連の排除に狂奔したのであったが、わが全学連の圧倒的な登場の前にその思惑は完全に挫折したのみならず、遂に革マル派の排除を国家権力に泣きつくというこの前代未聞の反階級的行為によって逆に墓穴を掘り、今や大衆からも市民からも完全に見放されつつあるのだからである。

まさにこのような中で——第三に——、わが全学連四千五百の部隊と反戦五百、反戦高連五百の大部隊は社共々闘に介入しその腐敗を弾劾しつつ闘い抜いている、動力車七百名のヘルメット部隊をはじめとする労働戦線深部で闘う先進的労働者と連帯しつつ、明治公園に登場し、そのハミ出し主義と市民主義的埋没の限界を明らかにしつつかつ革命的沖縄・反安保闘争の方向性をさし示して闘ったのであった。まさにそれは、ハミ出し主義的行動左翼集団の完全な総破産の中で、誰が真に既成左翼の腐敗に抗して闘い、前進し、70年代階級闘争を担えるものであるかをはっきり示したのであった。とりわけそれは、八派あわせて全国動員しても僅か千五百にも満たず、市民団体の動員に全面的に依拠しながらわれわれの登場に戦々兢兢し遂には国家権力に泣きこむことまで取立てた彼らの無様さとの対比において、だれの目にも鮮明であったといわなければならない。

＝中核派・解放派らの
前代未聞の通敵行為を弾劾せよ！
だがしかし学友諸君！

われわれは、小ブル急進主義者の墮落の窮局、わが全学連の排除を他ならぬ階級的敵権力に哀願するといふこの階級級的裏切り行為についてはいささかの曖昧さも残しておくことはできない。なぜならばそれは——たとえそれが彼ら小ブル急進主義者の自己保身と被害妄想的恐怖心のなせる行為だといえ——、明らかに「左翼」としての生命線にかかわる問題だからであり、しかも加えて彼らは今日、あらゆるウソとデマでそれを陰蔽しつつ逆に「権力の集会破壊の企図にのせ

られた革マル派（中核派）などという恥知らずな逆キャンペーンさえ敢えて行っているのだからである。従って、彼らの反動性を、事実をもって暴露しておく。

われわれは当初、八派連合によるセクト主義を弾劾しつつこの4・28闘争を、対共の腐敗に抗して闘う労学市民大統一行動として闘いとるべきことを明らかにし、われわれの参加を申し込れていたものであり、これに対して平連六月行動委は、「この4・28の行動に特定の団体の参加を排除しようという主張があれば六行委はそれに反対する」としてわれわれの参加を承認していったのであった。

だがこのような事態に驚き慌て危機意識にかられた八派連合は、一方では六行委にわれわれとの断絶を哀願しつつ他方、「内ゲバの恐れ」なるものをほめかすことによってそれを理由にした権力の規制にわれわれが全学連の明治公園への結集のデモコースを不許可にすることを期待したのである。だがこのような画策もまた完全に粉碎された。なぜならば彼らは、一方ではわが全学連の下からの統一行動要求のたたかいにゆきふられ、また他方では——六行委の動員に依拠しつつ4・28をカンパニア主義的にのりきることが最大の眼目であり唯一の延命策であったが故に——、六行委に対しては「革マル排除」を断乎として主張しえず、「（革マル派は）六行委の善良な市民をベテンにかけている」とか「六行委が詳しい事情を知らないことをいいことにゴマ化している」（中核派・前進四八〇号）などと泣き言を述べたてながらもついに公安委員会へのデモ申請においては彼ら自身「4・28は昨年の10・10集会参加団体に準ずる（すなわち、革マル参加も認める）」というかたちでわれわれの参加を認めざるを得なかったのだからである。

だがしかし、それまでは「革マル実力排除」を六行委に対して一言として語りえなかった彼らは、当日になって、わが全学連の清水谷への圧倒的な結集を聞きつけてその危機感を自己増巾させ、まさに自暴自棄的に、中核派・解放派・NL派・プントのたかだか百五十の武装ビケ部隊を急遽創出し、「武力排除」の道を絶望的にとったのであった。いや正確に云うならば、ただそのような構えをみせることによって彼らは、「内ゲバ」を理由にした権力によるわが全学連の排除に望みをかけたのである。

そして遂に……、わが全学連の圧倒的部隊の到着を目のあたりにしこれを阻止できないとみた彼らが、恥も外聞も投げ捨てて訴えた手段——それが「革マルを入れないでほしい。入れたら大変なことになる」という国家権力への泣きつきだったのである。

＝ウソとデマによる陰蔽を許さず 小ブル急進主義者の腐臭を一掃せよ！

わがブクロ中核派は、「（革マル派は）六月行動委に加入させてくれと申し込み断わられるといった無様である」（前進四八〇）とか「革マルの破壊策動に抗して集会を成功させた」とか「権力は集会への参加が承認されていない革マル派にわざわざ明治公園へのデモを許可し、……その集会破壊策動を利用しようとした」（前進四八一）だとかの、あらん限りのデマゴギーを流布しつつ自らの反階級的行為の陰蔽のためにヒステリックな金切り声をあげている。

だがしかし、このような彼らのインペイ策は、彼らの腐敗を一層自己暴露させるだけのことなのである。わが全学連を「官許の運動」「権力の企図にのせられた集会破壊者」に仕たてあげようとするブクロ派よ！そもそも「特定団体排除を主張するものがあればそれに反対する」という六行委の見解に承服して「4・28の参加団体は10・10の参加団体と同じである（革マル参加を認める）」というデモ申請を行ったのは一体誰であったか！そしてまた、権力のデモ不許可の恫喝を前に、「4・28首都制圧」というシンボルさえ投げ捨てて「都心デモ」にかきかえ、「官許のデモ」をかちとつたのは一体誰であったか！そして自らの行為については、「清水谷からデ

モでやってきた革マル派についてどうするのかと警視庁の人が聞きにきたのに対し、全共闘・全国反戦側が公園に入れないようにしてほしいと答えた。また全国反戦・全共連の防衛隊が公園から外部に進出した。この二つを目撃して六行委はこの処置（三者共催から六行委がおりること）をとった」（朝日ジャーナル5月10日号）という六月行動委大沢世話人の発言は全くのウソだともいうつもりなのであるか！

いかに彼らがその陰蔽のために狂奔しようとも、いまや事実とは明々白々に暴露されているのだ。だがしかし、彼らのこのような反階級的裏切り行為は、ただ単にわが全学連の革命的前進に対する小ブルジョア急進主義者の危機感を示しているという点にその反動性があるばかりではない。まさに彼らが、自己の武装蜂起主義的路線の完全な破産を陰蔽し延命するためには、どのような腐敗した手段をもとる輩であることを、それは示しているのである。思えば昨秋の闘いにおいて彼らは、現実の階級闘争の杜共的腐敗には超然としながら、その小ブル的危機感と驚くべき自己過信にもとづいて「武装蜂起」を呼号していったのであった。そして「一九〇五年のロシアの再現」の妄想にかられながら、学生のみならずほんの一握りの労働者に対しても催眠術師的曲折伏的オルグによって「肉弾思想」を注入し「機動隊殲滅」戦なるものに駆りたてていたのであった。だがその結果は、その全てを権力のエジギに供するか、さもなくば権力を前に滑走するか、でしかなかったのである。

だが彼らは、かかる武装蜂起主義的路線の破産を何ひとつ真面目に反省しようともせず、われわれの革命的批判によって自らの破産と無力さが暴露されることを陰蔽するために、全共連・全国反戦の私物化に全学連・先進的反戦の排除に狂奔し、また我々に対して「第二民青」とか「社民の尖兵」とかの理論外的レッテルをはりめぐらせようとしてきたのである。そしてまさにかかる腐敗の窮局が、4・28における彼らの、トロツキストの弾圧を権力に要請する日共スターリニスト以下のな行為なのであり、反階級的裏切り分子への転落なのである。

だがそれは、何ひとつの展望も持たずただ「情勢は断じて暗くない」などと自己暗示をかけているにすぎない、今や完全に生ける屍と化したわが階級決戦主義者が、進んで自分の墓穴を堀ったものといわなければならぬ。そこに彼らを埋葬することもまた、わが全学連の任務であり、日本階級闘争の真の前進を切り拓こうとする全ての先進的学友の任務なのである。

＝小ブル派の腐敗を弾劾し、日米共同声明粉碎・ 安保粉碎めざして、5・29全国学生ゼネストを かちとろう！ 全ての闘う学友諸君！

いま米帝国主義者はベトナム戦火の拡大を狙い、そして日帝もまたこれに積極的に加担しつつ他方では日米共同声明の現実化に狂奔しつつある。このような中でわれわれは、社共既成指導部の度し難い議会主義的腐敗に抗して、そしてまたいまや歴然とした小ブル急進主義者の落ちゆく先を知らぬ腐敗を弾劾しながら、ベトナム反戦闘争を、そして日米共同声明粉碎・安保粉碎のたたかいを、既成左翼の六月安保ゼネスト放棄に抗して労働戦線の深部から反安保闘争を築きあげようとする苦闘している先進的労働者と連帯して学生戦線において爆発的に高揚させてゆくのでなければならぬ。そしてそのステップとして、5・29全国学生ゼネスト統一行動を圧倒的にかちとり六月への隊列をうち固めてゆくのでなければならぬ。

全ての闘う学友諸君！

4・29ベトナム反戦・安保粉碎・日米共同声明粉碎の革命的火の手をあちゆる学園から噴きあげよ……そして六月安保粉碎へ、共に前進しよう！

5.14 15 アジア太平洋諸国会議粉碎・
愛知訪ジャカルタ阻止闘争
5.29 ベトナム反戦・安保粉碎・全国学生
ゼネスト統一行動
東京 日比谷野外音楽堂